



か かんがえる子ども
す すなおな子ども
が がんぼる子ども

佐世保市立春日小学校

佐世保市瀬戸越3丁目19番1号
校長 白濱 忠昭
児童数 622名 (23学級)

1 テーマ

確かな学力と豊かな心を持ち、
たくましく生きぬく児童の育成

2 目的

(1) 習得と活用を図った学力の向上

朝の時間の活用や習熟度別学習を通して、基礎・基本の定着と個に応じた指導の充実を図ることで、「基礎学力の定着と学ぶ力の育成」を目標とし確かな学力の向上を目指す。

(2) 豊かな心の育成

児童一人一人が自らかかわり活動できる体験活動の場を設定することにより、本校教育目標「確かな学力と豊かな心を持ち、たくましく生きぬく児童の育成」の達成を図る。

3 実践内容

本校では、校内研究の主題を「自ら考え、伝え合う力を育てる春日っ子の育成」～話したくなる学級・国語科の授業づくりを通して～とし、国語科の授業研究と今年度は授業の基盤となる学級づくり・仲間づくりにも取り組んだ。児童の主眼的な思考判断が課題解決に活かされるよう、言語活動を単元全体を通して一貫したものと位置付けた。授業の中に意図的に対話活動を位置付け、効果的な学習活動を模索実践していき、1単位時間の指導課程に「音読」「自力読み」「対話活動」「書く活動」を適切に位置付けた。さらに「めあて」と「まとめ」の明確化に焦点をしばり授業実践を行った。また、本年度は学級・授業の基盤となる、学級づくり・仲間づくりにも注目し、学級会や朝ワークに取り組むことで、学級内のコミュニケーションをよくすることにも努めた。温かいつながりのある学級の上に成り立つ、確かな思考力、判断力、コミュニケーション能力を身に付けた児童の育成を目指し、以下に記した教育活動を展開することで特色ある学校づくりを実践してきた。また、総合的な学習の時間や生活科等を中心とした学習の場において、「ひと・こと・もの」を通し、かかわりを深めさせていくことで、互いに学び合い命の尊さや大切さを取得する「春日っ子」の育成を図った。

4 具体的実践

(1) 習得と活用を図った学力向上の取組 (全校共通)

① 「朝の読書タイム」(8:30~8:40 毎週月曜の週1回)

年間を通して読みたい本を集中して読む活動を継続的に推進した。また、読み語りボランティアを招いて本の読み聞かせを行うことで、児童の心の情操育成に努めた。

《全年：通年：各教室》

② 「スキルタイム」(8:30~8:40 毎週火曜の週1回) 作成したスキル学習教材や既存のファックスプリント集を活用して、国語科の言語表現能力と算数科の四則計算能力を中心とした学習を系統的・継続的に行うことで、基礎力育成の素地づくりを図った。

《全年：通年：各教室》

③ 「さくらスキル」(8:30~8:40 毎週金曜の週1回)

低・高学年の発達段階に応じたオリジナルの音読教材集を作成し活用することによって、国語科の言語・表現能力の習得、向上を図った。

《全年：通年：各教室》

④ 「ワークショップ」(8:30~8:40 月1回 第3火曜日)

発達段階にあったワークショップを行い、コミュニケーションスキルを向上させ、学級内のつながりを深めるとともに、人権についての気づきをもつための感覚を養った。

《全年：通年：各教室》

⑤ 習熟度別学習

算数科少人数授業等において、習熟度別指導や補充的学習を行うことで、個に応じた学習指導を推進した。

《通年：特別活動教室》

⑥ 2、3、5年生において国語科・算数科の学力テストを5月に実施し、各学年で結果の検証を行い今後の課題を見だし、学力向上対策の手立てとした。朝の活動や家庭学習等での取組を通して今年度の教育実践に反映させた。

《2、3、5年：5月：各教室》

⑦ イングリッシュルームの環境を整備することで学びの環境が向上し、児童の異文化に対する関心とコミュニケーション能力が向上した。

《3、4、5、6：通年：イングリッシュルーム》

⑧ 図書室の環境を整備することで、本に親しむ児童が増え、豊かな心を育むことができた。

《通年：図書室》

(2) 豊かな心の育成のための各学年の取組

- ① 近隣の幼稚園や保育園から年長児を招いて、保幼小交流「なかよしフェスタ」を行い出店での遊びを通して協力する大切さや思いやりの気持ちを育んだ。 《1年生：12月》
- ② 花や野菜の栽培活動を通して、栽培の楽しさや収穫の喜びを感じさせるとともに、植物の命を大切に育てる心の育成を図った。 《1・2年生・さくらあすなろ学級：通年》
- ③ 町探検を通して、自分たちが住む町の良さや安心安全の工夫に気づくことができた。 《3年生：11月》
- ④ 長崎への見学旅行に出かけ原爆資料館や平和公園、城山小学校での平和学習を行い、命を大切に育てる心の育成を図った。また、2分の1成人式では自分の成長を保護者とともに味わうことができた。 《4年生：6月：2月》
- ⑤ 学校近隣の特別養護老人ホームの方々との交流を通して、相手を思いやる心を育てると共に、自分たちに何が出来るかを考え適切に関わる態度を身に付けることができた。 《5年生：通年：特別養護老人ホームやまのたサンタパーク》
- ⑥ 高齢者疑似体験や車椅子体験、アイマスク体験を行い、障がいのある人々の思いや苦勞を体験することによって、福祉について考えることができた。 《5年生：11月》
- ⑦ 他国の人との交流を通して、色々な国の文化を知り、日本の文化を紹介することで異文化理解を深めることができた。 《5年生：2月：国際大学留学生》
- ⑧ 卒業にあたり、これまで見守りお世話になってきた地域の方へ手作りのものやお礼の手紙を渡すことで、感謝の気持ちを持つことができた。 《6年生：2月》
- ⑨ 縦割り活動班で、プランターに花を植え水やり等のお世話をして育てることで、協力することの大切さや生き物の命の大切さを学ぶことができた。 《1～6年生：秋冬期》

5 各学年の取組

【第1学年】

(1) 活動名 「なかよしフェスタ」「チューリップの栽培」「むかしあそび」

(2) 活動のねらい

- ① 園児との交流を通して、思いやりの気持ちを育む。また、自分の成長に気づかせる。
- ② チューリップの栽培を通して、植物を大切に育てる気持ちを育てる。また、卒業式や入学式の装飾として役立ててもらい、6年生への感謝の気持ちや新入生を歓迎する気持ちを伝えさせる。
- ③ 昔遊びを通して、友だちとコミュニケーション活動を楽しみ、ルールを守って仲良く活動する経験を積ませる。

(3) 実践の場 体育館 校舎前各自の植木鉢 教室

(4) 活動内容

- ① 12月12日、「なかよしフェスタ」を行った。近隣の保育園、幼稚園児を招待して、自分たちで作ったおもちゃやゲームの出店で遊んだ。
- ② チューリップの球根を植え、水やりや草取りを行った。
- ③ お手玉、おはじき、けん玉、だるまおとし、かるた、佐世保ごま、はねつき、たけとんぼ、ふくわらい、すごろくなどを体験した。

(5) 成果と課題

- ① 「なかよしフェスタ」を開催して、出店での遊び方を説明したり、一緒に遊んだりする中で、年下の子へ優しく接する場面が多く見られ、相手を思いやる気持ちが感じられた。成長したようすが伝わった。8つの保育園・幼稚園から200名の参加で賑わった。
- ② チューリップの栽培をすることで植物を大切に育てていこうとする気持ちが高まった。
- ③ 昔遊びを通し、友だちと協力して遊ぶことやわがままを言わずに楽しく遊ぶ経験をすることができた。
- ④ 今年度は、園児との触れ合いを行ったが、今後は、地域のお年寄りの方を招いて折り紙や、あやとり、おはじき遊びなどの、伝承遊びにも一緒に取り組むなどして、更に地域の方と触れ合う機会を増やしていきたい。



【第2学年】

(1) 活動名 「かかわり合おう、自然・人」

(2) 活動のねらい

- ① 野菜の種や苗を植え、成長に応じた世話や観察そして収穫する体験を通して、栽培活動の楽しさと喜びを知り、生きているものの力強さや命のすばらしさに気づくことができる。
- ② 1年生との学校探検や公民館見学及び町探検の学習を通して、多くの人たちとつながり、かかわっている自分に気づき、積極的に交流しようとする事ができる。
- ③ 手作りおもちゃを自分で工夫して作り、みんなで楽しく遊ぶことができる。

(3) 実践の場 学年生活科園・校内・校区内の商店街

(4) 活動内容

- ① 一人一鉢のミニトマト、学年園のミニトマトを植え、お世話、成長観察、収穫をしてきた。夏野菜が終わった後は、サツマイモの苗を植え、学年みんなで収穫の喜びを分かち合った。
- ② 1年生とペアを組み、先輩として「学校探検」の先導や案内をし、校内生活のルール（廊下歩行やあいさつの仕



方など)を教えていった。町探検では、保護者の支援のもとグループで協力しながら見学やインタビューをし、多くの人とかかわることができた。

- ③ 身近にある材料を使った手作りおもちゃを、遊び方のルールや役割分担を決めて、みんなで楽しく遊んだり、1年生に「おもちゃのせつめい書」を書いて贈ったりすることができた。

(5) 成果と課題

- ① 自分の鉢で育てることで、責任をもって育てることができた。苦手な野菜であっても、収穫した野菜は大切に持ち帰り、積極的に口にすることができた。収穫を楽しみにお世話をがんばることができた。食べることを通して、家庭と連携しながら、食物に対する感謝の気持ちをもたせることができた。「学校探検」では、お兄さんお姉さんとして、「1年生と仲良く活動したい」という気持ちをもって優しくかかわり合うことができた。
- ② 町探検では、保護者や校区内の商店の協力をいただき安心して商店を回ることができた。普段校区内であっても一人でお使いや散歩をする機会が少なく、初めての体験に緊張する児童もいたが、グループで回ることによって元気の挨拶や質問をしたり、新たな発見をしたりすることができた。そして、自分が住む町に対して愛着をもつことができた。
- ③ 1年生が、学校探検のお礼状をもらったり、音読「くじらぐも」をクラスごとに聞かせに来てくれたりした。そのお返しに2年生は自分たちが作って遊んで楽しかった「おもちゃのせつめい書」を書いてペアの相手に直接渡すことで、達成感や満足感を味わうことができた。

【第3学年】

- (1) 活動名 「佐世保自慢を見つけよう」「春日の安心・安全」

(2) 活動のねらい

- ① 自分たちが住む佐世保の街の自慢できる場所を調べ、「佐世保じまん新聞」を作り、発表することによって、郷土の良さを発見させる。
- ② 校内及び校区内にある交通、防犯、防災に関する情報を集め、安全マップを作成することで危機管理意識を高める。また、起こりそうな危険を想定し、それを回避するための対策を学ぶことで、身を守る行動の大切さを理解させる。

- (3) 実践の場 教室 春日小学校内 及び 校区内

(4) 活動内容

- ① 佐世保の自慢できる「こと」や「もの」について調べ、「佐世保じまん新聞」を作る。
- ② 校内及び校区内から「交通」「防犯」「防災」に関する情報を集め、地図に記入する。

(5) 成果と課題

- ① 自分たちが住む佐世保の街の自慢できる場所を調べ、「佐世保じまん新聞」を作り、発表することによって、改めて郷土の良さを知ることができた。
- ② 事前学習で見通しを立てて、校内及び校区内の安全の工夫を調べわかったことを地図に記録しながら、危険を回避するための方法や注意点を確かめ合うことができた。
- ③ 校内及び校区内の安全を守る工夫について知ることができた。地域のよさを知り、安心安全への意識が高まった。また、グループによる学習や活動を通して協力し関わり合い伝え合う学習を経験することができた。



【第4学年】

- (1) 活動名 「平和学習」「2分の1成人式を成功させよう」

(2) 活動のねらい

- ① 佐世保空襲や長崎への原爆投下について、被害の様子を調べ、家族や住む所を失った人々の悲しみについて考えさせる。
- ② 原爆資料館で展示物を見学し、戦争の悲惨さと平和の尊さについて考えさせる。
- ③ 平和学習や環境問題について課題をもち、調べたり、体験したりしたことをまとめ、情報発信する活動を通して、平和を愛し、命や豊かな環境を大切にしていこうとする意欲や実践的態度を養う。
- ④ 音楽発表会で発表したことを、さらにレベルアップさせて演奏を披露することで、成長した自分たちの姿を見せる。

- (3) 実践の場 教室 長崎市見学 アルカス佐世保 体育館

(4) 活動内容

- ① 佐世保空襲に関する資料を作成し、戦時中の難しい語句を理解し、図や写真によって焼夷弾や防空壕、学童疎開などについて理解する。さらに見学旅行で、原爆資料館、城山小学校、平和公園での見学といった平和学習を通して、平和に対する思いをさらに強くする。戦争中の生活の様子や原爆投下周辺地の様子を知ることで、原子爆弾の威力の大きさを知る。
- ② 調べたことや、見学や講話などで感じたことを、新聞や資料としてまとめ、校内に掲示することで戦争の悲惨さと平和の大切さについて伝える。
- ③ 様々な楽器の効果的な演奏をライブ方式で45分間披露する。
- ④ ライブ開始までの待ち時間に、体育館後方に掲示したメッセージ色紙を目にもらい、保護者にも成長の感動を共有していただく。

(5) 成果と課題

- ① 実際に見たり聞いたりしたことで、「平和学習」への意欲が高まった。また、知り得た知識や自分の考えをまとめたりすることで、平和について意欲的に考えるきっかけとなった。



- ② 体験したことや調べたことをまとめ、新聞という形で友達や他の学年の児童にも伝える活動を通して、「平和を大切にする」という気持ちが高まった。
- ③ 国語の単元の「一つの花」の学習でも、戦争の場面を思い起こすのに役に立てることができ、戦争により引き裂かれる家族の思いについて考えることができた。
- ④ 合奏については、高度な技を活かした素晴らしい演奏を披露することで、保護者を感動させることができた。
- ⑤ 演奏は、アルカスさせば、2分の1成人式、お別れ集会の3回。高いレベルの演奏にチャレンジするうえで必要なことは、技術以上にチームワークの大切さを学ばせることができた。

【第5学年】

(1) 活動名「コミュニケーション能力を向上させよう」～やまのたサンタパークとの交流・国際交流を通して～

(2) 活動のねらい

- ① 高齢者になると身体や行動等に様々な変容が見られることを認識し、これから加速する高齢化社会に向けて、社会の一員としてどのような態度で臨めばよいか考える。
- ② かかわり合い、伝え合うことで、相手を思いやる心を育てると共に、自分たちに何ができるかを考えさせ適切にかかわる態度を身に付けさせる。
- ③ 交流を楽しむ中で、外国の文化や習慣に目を向け、世界の国々への思いを広げていく。

(3) 実践の場 特別養護老人ホーム「やまのたサンタパーク」 体育館

(4) 活動内容

- ① 「自分から進んで、相手を思いやる心をもとう」をキーワードとして年間計画をもとにかかわり合い、伝え合う活動を展開した。
- ② 福祉について考えると共に、車椅子体験やアイマスク体験などの高齢者疑似体験を行い、高齢者の方々の思いに寄り添いながら、活動を進めた。
- ③ 施設入所者との交流を、二度実施した。一回目の交流を通して、高齢者とのかかわり方を考え、二回目の訪問に生かすよう考えさせた。
- ④ 長崎国際大学より、留学生にゲストティーチャーとして来校していただき、交流会を行った。



(5) 成果と課題

- ① 佐世保市福祉活動プラザの方に高齢者疑似体験の際、「福祉」について話をしていただいた。このことが「福祉」についての理解を深める一助となった。
- ② 始めは高齢者の方々に対して、どのように接してよいのか戸惑いが見られていたが、一度交流を経験することで高齢者の方々の身体的な特徴や思いなどを感じ取り、気持ちを通い合わせながら交流しようとする態度が見られるようになった。
- ③ 交流をこれからの自分の生き方につなげている子どもの姿も見られた。「思いやりを大切に生きていきたい。」「互いに支え合うことを大事にしていく。」という子どもたちの思いが嬉しかった。
- ④ サンタパークまでは徒歩で数分ととても近い距離にあることや、職員の方々も協力的であり、スムーズに活動することができた。ただし、インフルエンザやその他の流行性の疾病等を考慮して訪問の時期を決定することが必要である。
- ⑤ 国際交流では、自国の紹介だけに終わらず、児童が留学生とスキンシップを図りながら一緒に楽しめるゲームを仕組んだ。そのことで、異なる文化や習慣をもつ人々と触れ合うことのよさにも気づくことができた。また、簡単なあいさつや自己紹介などができるよう調べ学習を行った。

【第6学年】

(1) 活動名 「ありがとう」の気持ちを伝えよう！

(2) 活動のねらい

- ① 地域の方々や保護者の方など、これまで温かく見守っていただいた方へ感謝の気持ちを持ち、地域を愛し、人を敬う心を育てる。
- ② 地域の方々や保護者の方に、感謝の気持ちを伝えるためにはどのような方法がよいかを考え、行動に移すことができる。

(3) 実践の場 春日小学校

(4) 活動内容

- ① 卒業を前に、6年間お世話になった地域の方や保護者へ感謝の気持ちの伝え方を考えた。
- ② 地域の方に、感謝の思いを込めて手紙を書いた。
- ③ 感謝の気持ちを伝えるコサージュを作り、できあがったものを手紙と共に地域の方へのプレゼントとした。
- ④ 一人一人の思いがしっかりと伝わったか、振り返り活動を行った。



(5) 成果と課題

- ① 今まで「だれに」「どんなことで」お世話になってきたかを振り返らせ、何をどのような形で伝えたら地域の方や保護者の方に思いが伝わるのか、子どもたち一人一人が謙虚に話し合っ考えることができた。
- ② 感謝の気持ちを精一杯伝えようと、手紙を書くことやコサージュ作りをがんばっていた。
- ③ 活動の「めあて」を常に意識させることで、思いの込められた贈り物を渡すことができた。